

※本情報は、現段階でのものです。今後、状況に応じて変更になることもあり得ます。

(令和7年4月)

- 1 [熊本大学教育学部附属学校国際クラスの特徴は何ですか？](#)
- 2 [「熊大附属型イマージョン教育」とは何ですか？](#)
- 3 [熊本大学教育学部附属学校国際クラスにおけるイマージョン教育、イマージョン環境はどのようなものを想定していますか？](#)
- 4 [国際クラスでは、どのような人材の育成を考えていますか。](#)
- 5 [附属小学校における目指す児童の姿は何ですか。](#)
- 6 [国際クラスでは、どのようなカリキュラムになりますか。](#)
- 7 [国際クラスの場所はどこになりますか。](#)
- 8 [建物が違うと、国際クラスと一般クラスの子どもたちが接する機会が少ないと思われるのですが、子どもたちの交流のようなものはありますか。](#)
- 9 [国際クラスでは、体育大会や音楽会などの学校行事はどのように行われますか。](#)
- 10 [一般クラスから国際クラスへの編入、国際クラスから一般クラスへの編入は可能でしょうか。](#)
- 11 [国際クラス開設後、小学校と中学校の一般クラスの定員の増減はありますか。](#)
- 12 [附属中学校における国際クラスはどのような予定で開設されますか。また、高校については予定がありますか。](#)
- 13 [附属中学校の入試に関して、英語のコミュニケーション能力以外、どのようなことが求められますか。](#)
- 14 [国際クラスに入るための条件は何ですか。また、現在、附属小学校・中学校に在籍する児童生徒は国際クラスに入ることができますか。](#)
- 15 [国際クラスに入るためには、どの程度の英語力が必要ですか。また、どのような準備をしておくといよいでしょうか。](#)
- 16 [帰国児童生徒の扱いについてはどのようにになりますか。](#)
- 17 [卒業後の進路についてはどのようにになりますか。](#)
- 18 [授業料はかかりますか。](#)
- 19 [一般クラスの児童生徒や保護者には、どのようなことが求められますか。また、どのような協力をしていけばよいでしょうか？](#)

1 熊本大学教育学部附属学校国際クラスの特徴は何ですか？

熊本大学教育学部附属学校国際クラスでは、日本人及び外国人の児童生徒からなる学級の中で、日本人教員及び英語のネイティブの教員の二人体制で、一条校※¹として日本の学習指導要領に沿ったカリキュラムにおいて多くの教科等の時間を主に英語で学ぶ、「熊本大学教育学部附属学校型イマージョン教育」(以下、「熊大附属型イマージョン教育」という)※²を行います。日常の中で英語を使う場面が自然と生まれ、英語能力の習得と教科等の学びの充実を同時に目指します。

※1 学校教育法第1条に規定する学校。いわゆるインターナショナルスクールとは異なり、居住地域の小学校や中学校に籍を置く必要はなく、附属小学校・中学校の在籍児童生徒となり、卒業証書も附属小学校・中学校長から授与されます。

※2 次の項目をご覧ください。

2 「熊大附属型イマージョン教育」とは何ですか？

熊大附属型イマージョン教育とは、熊本大学教育学部附属小学校及び附属中学校の教育理念を踏まえて、学校で身に付けるべき資質・能力を育てつつ、英語と日本語、両言語の伸長を目指す教育のことです。イマージョン教育※¹を軸としながら、CLIL※²等の教育手段を用いることにより、多くの教科等を、英語で、多国籍の仲間と学び合う授業を展開します。

詳細は、[こちらのページ](#)をご覧ください。

※1 一般的には、「イマージョン教育」は、目標言語の環境に「浸る(immerse)」ことで、自然にその言語を習得するバイリンガル教育の一種と考えられています。外国語を教科として学ぶのではなく、外国語を手段として教科等を学ぶことで言語習得を目指しています。

※2 Content and Language Integrated Learning の略称。教科科目やテーマの内容(content)の学習と外国語(language)の学習を組み合わせた学習(指導)の総称で、日本では、「クリル」あるいは「内容言語統合型学習」として呼ばれています。主に英語を通して、何かのテーマや教科科目(数学(算数)、理科、社会、音楽、体育、家庭など)を学ぶ学習形態をCLILと呼ぶ傾向があります。主な特徴は、学習内容(content)の理解に重きを置き、学習者の思考や学習スキル(cognition)に焦点を当て、学習者のコミュニケーション能力(communication)の育成や、学習者の文化(culture)あるいは相互文化(interculture)の意識を高める点にあると言えるでしょう。(日本 CLIL 教育学会ホームページ(<https://www.j-clil.com/clil>)を基に作成)

3 熊本大学教育学部附属学校国際クラスにおけるイマージョン教育、イマージョン環境はどのようなものを想定していますか？

令和8年度から開設する国際クラスにおいては、日本人及び外国人の児童生徒からなる学級編制の中で、日本の学習指導要領に沿って、多くの教科等で英語による授業を実施します。

よって、英語を母語としない児童生徒にとっては、英語による「イマージョン」教育となります。また、日本語を母語としない児童生徒にとっては、多くの教科等で英語による授業を受けるとともに、国語や道徳などの時間は日本語による「イマージョン」環境の中で授業を受けることとなります。なお、必要に応じて日本語指導もあわせて行います。

国際クラスでは、日本人・外国人児童生徒ともに、国籍を超えて互いに学び合う中で、将来国内外を問わず多方面で活躍できるようになるための語学力(英語・日本語)やグローバルマインドの育成を目指します。

4 国際クラスでは、どのような人材の育成を考えていますか。

英語でのコミュニケーション能力を身に付け、主体的に豊かな人生を切り拓く、持続可能な社会の担い手として、世界中の誰とでも協働・協力しながら新たな価値を創造したり課題解決に取り組んだりすることができる人材の育成を目指します。

5 附属小学校における目指す児童の姿は何ですか。

熊本大学教育学部附属小学校では、【自主自立の教育】【個性重視の教育】【自他の尊重の教育】を教育目標とし、次の三つを目指す子ども像としています。

●考える子

- ・確かな学力を身につけ、進んで課題に取り組み、科学的に追求し、自分の考えをもち、新しい時代を創造する子ども
- ・豊かな感性をもち、自然や郷土及び日本を愛する心情をもった子ども

●強い子

- ・心身ともに健康で、ねばり強い心をもった子ども

- ・ 自覚と責任をもって、最後までやり遂げる子ども

● 明るい子

- ・ 仲良く協力しあって、ともに伸びる子ども
- ・ 学校のきまりや生活のマナーを守り、勤労を尊び、感謝や尊敬の気持ちをもった心豊かな子ども

上記三つの子ども像に加え、国際クラスにおいては、積極的に外国語（英語・日本語）を使って他者と交わり、学びを深め、自信をもって世界中の誰とでもコミュニケーションを図れる子どもの育成を目指します。

国際クラスの具体的な教育方針については、[こちらのページ](#)をご覧ください。

6 国際クラスでは、どのようなカリキュラムになりますか。

日本の学習指導要領に則ったカリキュラムでこれまで附属学校で行われてきた教育活動と基本的に同じものを想定しています（国際バカロレア等の国際的な認定を得たカリキュラムとは異なります）。日本や熊本に根付いた教育の上に、これまでの熊本大学教育学部附属小学校、附属中学校それぞれの伝統や特色ある教育^{※1}を大事にしながら、授業を含む学校生活において英語をたくさん使う環境の中で、英語・日本語の言語力の向上を目指す教育を行うことにしています。

※1 熊本大学教育学部附属小学校及び中学校の概要や学校行事等の特色ある教育については、それぞれのホームページでご確認ください。（画面右上のバナー参照）

7 国際クラスの場合はどこになりますか。

現在、附属小学校の北側、給食センターとプールの間の敷地に、国際棟（仮称）の建設がスタートしており、国際クラスの教室は小学校・中学校ともにその棟内になる予定です。1・2階が小学校、3階が中学校の教室となります。



※完成イメージ（現段階のもので、仕上げ材等は変更の可能性があります。）

8 建物が違うと、国際クラスと一般クラスの子どもたちが接する機会が少ないと思いますが、子どもたちの交流のようなものはありますか。

体育（保体）や音楽など一部の教科では国際クラスと一般クラスの共同授業が可能だと考えています。授業以外の時間を含めて、可能な限り交流の機会を設けていきたいと考えています。

9 国際クラスでは、体育大会や音楽会などの学校行事はどのように行われますか。

カリキュラム自体は一般クラスと基本的に同じですので、学年単位で行われる授業、学校行事等は基本的に一緒に行うことを想定しています。

10 一般クラスから国際クラスへの編入、国際クラスから一般クラスへの編入は可能でしょうか。

国際クラスでは、目標とする言語（英語・日本語）を教科としてではなく、生活言語（手段）として、長期的なスパンで学んでいくことが必要だと考えています。そのため、基本的には国際クラスと一般クラス間の異動は望ましくないと考えています。

11 国際クラス開設後、小学校と中学校の一般クラスの定員の増減はありますか。

定員の増減等は今後の小中学校全体のバランスや現実的な状況を踏まえて、文部科学省にも確認しながら検討しているところです。

12 附属中学校における国際クラスはどのような予定で開設されますか。また、高校については予定がありますか。

附属中学校の国際クラスは、令和9年度（2027年度）にまず中学校第1学年のみ開設します。以後、年次進行で第2学年、第3学年を開設し、令和11年度（2029年度）に小学校から中学校までの全学年がそろう予定です。

なお、高校については、附属高等学校がないため、現段階では中学校までの計画としています。

13 附属中学校の入試に関して、英語のコミュニケーション能力以外、どのようなことが求められますか。

国際クラスに係る選考考査の具体についてはまだ検討段階ですが、これまでの附属中学校の選考基準である学力等に加えて、英語力も必要となると想定しています。

14 国際クラスに入るための条件は何ですか。また、現在、附属小学校・中学校に在籍する児童生徒は国際クラスに入ることができますか。

具体的な条件等は、現在検討をしています。

令和8年度（2026年度）の開設に当たっては、新入生を除く小学校第2学年以上の日本人児童については、定員の関係から、既に附属小学校に在籍している児童のみが対象となります。

外国人児童については、令和8年度（2026年度）の開設時には全学年転編入学考査を行います。

また、毎年度、欠員状況に応じて学年毎の転編入学考査を実施する予定です。

15 国際クラスに入るためには、どの程度の英語力が必要ですか。また、どのような準備をしておくといよいでしょうか。

具体的な必要条件や判断基準等は、現在検討をしています。

国際クラスでは、多くの教科等の授業を英語で行う予定としていることから、選考条件の内容に関わらず、事前にある程度の英語力を身に付ける努力をしておくことが望ましいと考えます。国際クラスを希望する場合は、早いうちから可能な限り英語の表現を学んだり、実際に使う場を増やしたりするなど、それぞれでできることを進めておくといよいでしょう。あわせて、英語以外の発達段階に応じた各学年での学習内容の習得も必要です。

なお、令和8年度（2026年度）以降の国際クラス開設後の実際の授業等においては多くの教科で英語を使って進めるため、学校においても英語に関する補充学習の時間等を設け

ることや、家庭学習の在り方も検討しています。(家庭での支援も必須となりますのでご理解・ご協力をよろしくお願いいたします。)

16 帰国児童生徒の扱いについてはどのようになりますか。

帰国児童生徒については、どの募集枠での転編入とするかや、対象とする海外での滞在経験の詳細等については、現在検討中です。

17 卒業後の進路についてはどのようになりますか。

附属小学校の卒業後は、引き続き附属中学校の国際クラスに進学する以外に、附属中学校の一般クラス、居住地域の公立中学校、その他私立学校等も考えられます。

附属中学校の卒業後については、これまでの一般クラスと同様、県立高校や私立高校、県外の学校等への進学等が考えられます。

いずれにせよ、国際クラスであっても一般クラスであっても、一条校として、学習指導要領で定められている育成すべき資質・能力を児童生徒が身に付けることが学校として重要であると考えています。

なお、前述したように、本国際クラスは、日本の学習指導要領に沿ったカリキュラムですが、国際クラスで身に付けた語学力やグローバルマインドを生かして、卒業後、例えば高校や大学において交換留学をしたり、海外の大学等への進学に挑戦したりするなど、幅広い進路選択も可能になると考えています。

18 授業料はかかりますか。

国立の学校であるため、現段階で予定している標準的なカリキュラムにおいては、授業料は一般クラス同様かかりません。

なお、授業料以外の給食費やPTA活動費、学級費、その他の費用、また、制服、体育服、通学カバン等に係る経費は、他の公立学校や本校の一般クラスと同程度とご理解ください。具体的な金額の目安をお知りになりたい場合は、直接ご連絡ください。

19 一般クラスの児童生徒や保護者には、どのようなことが求められますか。また、どのような協力をしていけばよいでしょうか？

日本の文化に馴染みがない外国籍の児童生徒や保護者の方への、ご理解とご協力をお願いしたいと考えています。